

管内酪農場で発生した牛サルモネラ症清浄化対策の取組

茨城県県南家畜保健衛生所

○富田 海 長沼 悠美

牛サルモネラ症は、*Salmonella*属菌を原因とし、下痢や発熱、流産などを示す細菌性の経口感染症であり、原因菌は環境中で長期間生存。*Salmonella*属菌は糞便や汚染環境を介して拡散しやすく、牛舎環境の清浄化が防疫上重要。令和7年1月、成牛29頭を飼養する管内酪農場において成牛10頭で下痢、発熱が認められたため糞便検査を実施したところ、*Salmonella* Typhimuriumを分離し、牛サルモネラ症と診断。清浄化に向けた協議の結果、獣医師と畜主の意向もあり発症牛を対象にした治療、畜主による消毒および家保による継続的な検査を実施。2月の全頭検査では、20頭(65%)で陽性を確認。対策を続けた結果、6月の全頭糞便検査では7頭(24%)の陽性に減少。収束の兆しが見られたが、7月には陽性牛が15頭(52%)に増加。この結果を受け、清浄化対策の見直しが必要と判断。改めて畜主、獣医師と協議を行い、治療対象を発症牛から全頭へ変更、陽性牛の隔離や作業手順の見直しを主とする飼養管理を再考。加えて、畜主、関係団体、家保による飼養衛生管理区域の徹底消毒を2日間にわたり実施。その後、2回の全頭糞便検査及び環境検査により陰性を確認。令和7年11月に清浄化を達成。清浄化に11か月を要した。牛サルモネラ症の早期清浄化のためには、発生状況の早期把握、適切かつ徹底した治療、集中的な環境対策は基より畜主や関係者への疾病対策に対する十分な合意形成が重要。